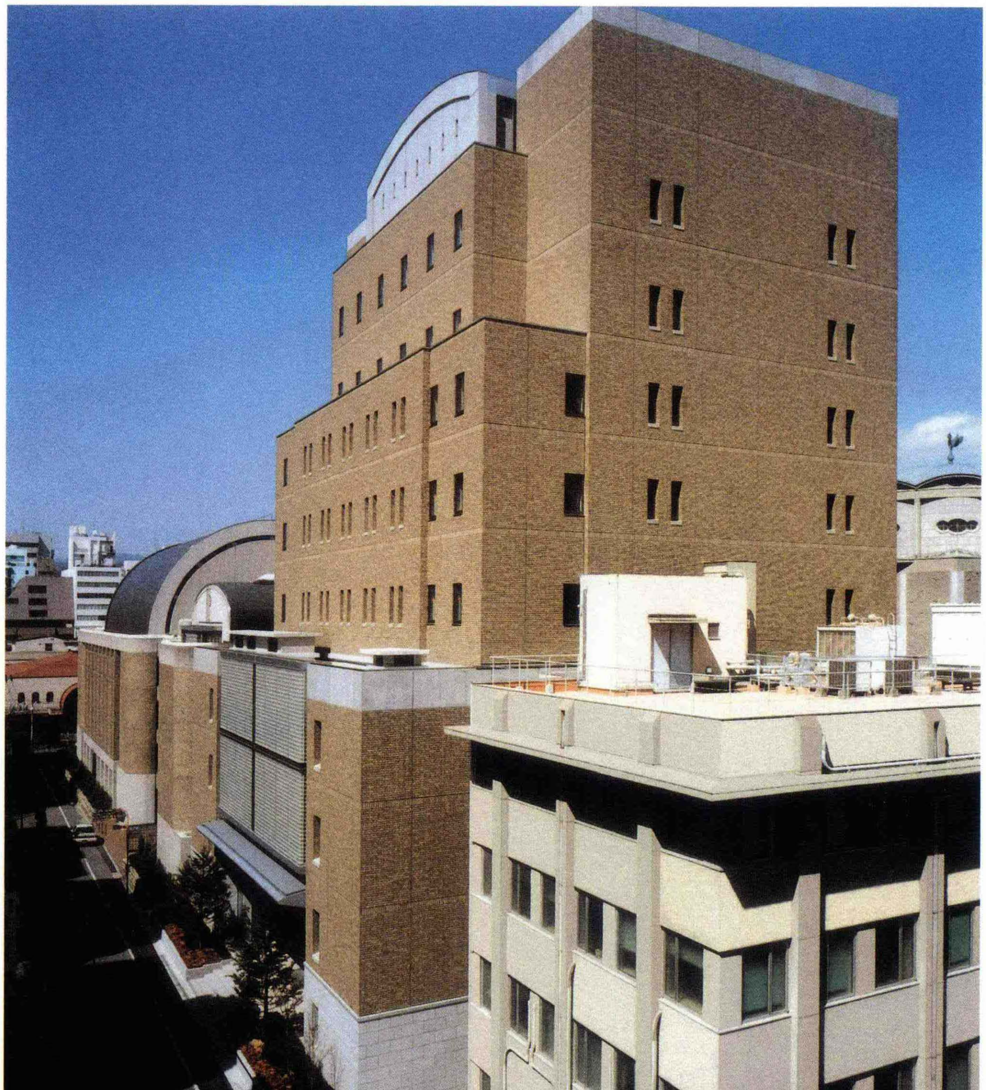
Deo gratias

ELISABETH UNIVERSITY OF MUSIC

エリザベト音楽大学創立50周年記念誌

エリザベト音楽大学
ELISABETH UNIVERSITY OF MUSIC



ET PORTA

CONTENTS

Deo gratias ELISABETH UNIVERSITY OF MUSIC
エリザベト音楽大学創立50周年記念誌 目次

創立50周年によせて — 6

イエズス会総会長 ペーター＝ハンス・コルベンバッハ

エリザベト音楽大学理事長 小崎 次郎

エリザベト音楽大学学長 井上 一清

カトリック広島司教区司教 三末 篤實

学校法人上智学院理事長 山本 襄治

歴代同窓会長・後援会長

提携大学・姉妹大学

歴代理事長・学長 — 18

50年のあゆみ — 21

25年の記録 — 73

音楽学校が生まれるまで

25年の記録

資料編 — 89

定期演奏会

エリザベトコンサート

スピリチュアルコンサート

クリスマスコンサート

その他のコンサート

建物の変遷

名誉教授・法人役員・教育職員・事務職員

おわりに — 140

■創立50周年によせて

CURIA PRAEPOSITI GENERALIS
SOCIETATIS IESU
ROMA - Borgo S. Spirito, 4

11 June 1998

Father Chancellor, Mr. President, Members of the Board of Trustees, Staff and Students of Elisabeth University of Music

I welcome this opportunity to look back upon the fifty years during which the Elisabeth University of Music has been committed to offer its unique contribution to Japanese society: a professional education in music in the spirit of Christian humanism. Could Fr. Ernest Goossens, S.J., at the Hiroshima Evening Music School so many years ago have anticipated such growth: recognition in 1948 as the Hiroshima School of Music, in 1952 a full-fledged junior college under the patronage of Queen Elisabeth of Belgium, in 1963 a four-year college, becoming the present Elisabeth School of Music, in 1967 the creation of an independent Department of Sacred Music, and the establishment of the Graduate Division in 1990? Most recently, in 1993 the Graduate Division received government approval to open a doctoral program and to accept students from other countries. Congratulations on these fifty years!

On this auspicious occasion, may I repeat three wishes that I communicated to you in 1992?

First of all, the wish that on the international level the outstanding contribution of Japanese musicians become increasingly stronger.

Secondly, the wish that the nearly perfect technique of high fidelity used by records, tapes and sound-tracks does not discourage you from making music yourselves nor from trying new interpretations and creating new musical dimensions.

Finally, I encourage all of you to try to appreciate the beauty of sacred music. Please keep singing the Gregorian melodies and continue to develop the tradition of sacred music in Japan.

My congratulations as you finish these fifty years. Let us hope that the succeeding years will be as fruitful.

Yours sincerely in Christ,

Peter-Hans Kolvenbach

Peter-Hans Kolvenbach, S.J.
Superior General

エリザベト音楽大学はキリスト教のヒューマニズム精神に基づいた音楽専門教育という類いまれな貢献を、日本社会に対して行ってきました。この50年間を、謹んで回顧させていただきます。イエズス会の神父であったエルネスト・ゴーセンス師は、数十年も前、夜間の広島音楽教室を開設された折りに、次のような発展を予期されていたでしょうか。1948年には広島音楽学校として認可され、1952年にはベルギーのエリザベト王妃の御後援をいただいて発展した短期大学となり、1963年には現在のエリザベト音楽大学のような4年制大学となり、1967年には独立した宗教音楽学科が創設され、さらに1990年には大学院が設けられました。また最近1993年には政府より大学院への博士後期課程設置が認められ、諸外国から留学生を受け入れ始めました。このような50年間に対して心より祝福申し上げます。

この素晴らしい機会に際し、1992年に私が貴大学に捧げました3つの祈りを、再び繰り返させていただきます。

まず第一に、国際的なレベルでの日本人音楽家の際立った貢献が、一層めざましいものとなりますように。

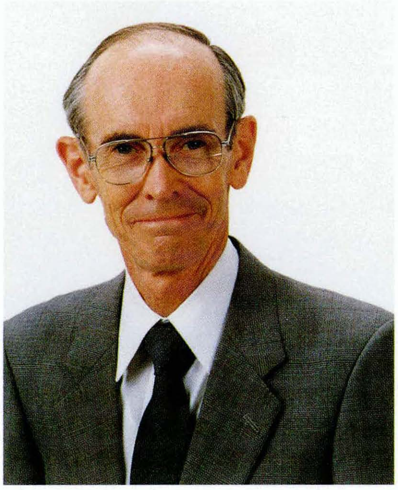
第二に、レコード、テープ、サウンドトラックといったものに用いられているほぼ完璧ともいえる高度な録音・再生技術に臆することなく、皆様が、自分自身の音楽を作り出すことや新しい解釈を生み出すこと、そして新たな音楽世界を創造することに励まれますように。

最後に、宗教音楽の本当の美しさを、皆様が認識されますように。グレゴリオ聖歌を歌い継ぎ、日本における宗教音楽の伝統を発展させていかれますように。

エリザベト音楽大学が50周年を迎えられましたことに、心よりの祝辞をおくらせていただきます。またこれからの一層の御発展をお祈りいたしております。

キリストと共に　　イエズス会総会長

ペーター＝ハンス・コルベンバッハ神父



成　熟

学校法人エリザベト音楽大学理事長　**小崎　次郎**

創立50周年を迎えることは幸いなことです。50歳の誕生日にこのようなお祝いを行うことは当然なことでしょう。それは豊かな経験を積み、大きく成長したことを意味します。蕾は、今や花盛りとなりました。これは成熟ともいえます。人は自分の才能を自覚し、その限界をわきまえ、確たる自己をもっています。個性も備わり、自立し、協調性が育つことにより、幅広くいろいろな方々と付き合うことができます。社会はこのような人間を紳士、淑女と称し、高く評価するでしょう。

数多くの卒業生を送り出してきたエリザベト音楽大学も成熟してきたと申し上げさせて頂きたいと思います。大学は独自の校風をもち、固有な雰囲気、他校にないエネルギーを蓄えています。教育目的もはっきりしており、世間に知られています。教育には数多くの専門分野があり、本学はその一部を担うのみですが、与えようとしている教育は徹底しています。音楽の技能ばかりではなく、バランスのとれた音楽理論や音楽史などの基礎も、学生にとっては学識だけでなく、教養や人格形成上非常に重要です。

カトリック大学としてのエリザベト音楽大学は、「他者に仕える人」を社会に送り出したいと考えています。イエス・キリストは、「来たのは、仕えられるためでなく、仕えるためであり、自分の命を与えるためである」といわれました。学生たちも自分に授かった才能を活かして、社会に奉仕することができればと思います。これこそ成熟の頂点でしょう。命は恵であり、それに対して深く感謝するのは気高い魂の現れです。

エリザベト音楽大学の50周年を祝い、神様をはじめ皆様に感謝の意を表したいと思います。

創立50周年によせて

エリザベト音楽大学学長　井上　一清

エリザベト音楽大学は、本年11月、創立50周年を迎えました。

核兵器の惨禍に見舞われた広島で、音楽を通して青少年に心の安らぎを、音楽文化の灯火を広島にという願いから創設された本学が、今半世紀50年の軌跡を経てこの日を迎えることができたことにはとても感慨深いものを覚えます。

開学当初から、最大の課題は資金集めでした。学園運営維持のため国内外からの浄財を集め、また、楽器購入を目的とした数々の演奏会やバザーが行われました。今考えますと大変苦しい時代を過ごしてきたようにも思います。しかし、そこには創設者エルネスト・ゴーセンス師の音楽教育に対する並々ならぬ情熱と、学生たちの活気や意欲が溢れていました。ゴーセンス師を始めスタッフ、学生、そしてこれまで本学に携わった者すべての音楽への情熱が、時を越え、数々の困難を克服し、本学がここまで発展することのできた原動力であったと思います。

現在、卒業生は4,000名を越えました。本学は小規模ながらも、広島音楽学校設立から4年後に短期大学、その10年後には4年制大学に昇格、また、1990年に大学院修士課程、93年には博士後期課程開設と、これという大きな休止符もなく伸長を続けて参りました。

先人の献身的な努力の結晶である50年という歴史そのものを、我々は次世代へ継承していく義務があります。そのことは、広い教養をそなえた良識ある音楽家を育成するという建学の精神の継承に他なりません。

音楽を通した人格完成を目指し、これからの21世紀を担う音楽人を輩出していくことが私共に課せられた使命の一つであると考え、その実現のため今後も努力していく所存です。

最後になりましたが、創立50周年にあたり、これまで本学に対して一方ならぬご理解とご協力を賜りましたすべての皆様に心から厚く御礼申しあげますと共に、これからも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

創立50周年にあたって

カトリック広島司教区司教　三末　篤實

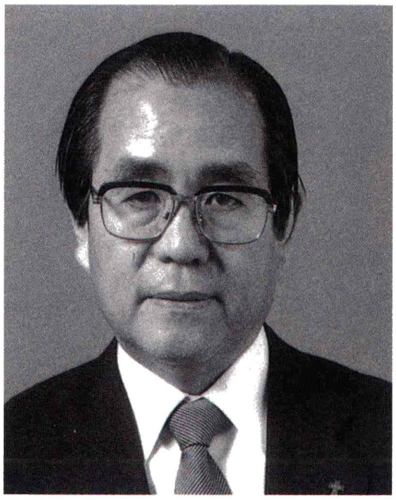
このたび、エリザベト音楽大学創立50周年にあたり、心よりおよろこびを申しあげます。

昭和23年、戦後間もない広島に音楽学校が創立され、その第一歩をふみだした訳でありますが、その歴史のあゆみを伺いますと時期が時期だけに大変な困難もあったとお聞きいたしました。しかし、創立者をはじめ、関係各位、多くの善意の方々のご協力とご支援によって大きく発展し、今日のように短期大学から4年制大学、専攻科、大学院を設置するほどになりましたことは、本当に敬服の至りですし、感謝いたしたいと思います。又私たちにとっては、このうえないよろこびであり、誇りでもあります。地域社会・国家にとっても同じでありましょう。

聖書に「山の上にある町は、隠れることができない。」(マタイ・5の14)とありますが、正に音大はそのような感じがいたします。人々に音楽を通して夢と希望を与え、人生に光と意義をもたらすことのできる手段をもっているからです。このように考えますと音大のもつ存在意義には、とても大いなるものがあります。

今後とも、現実的には種々の困難があるかと思われますが、沢山の善意の方々のご支援と関係各位のご尽力によって、より大きく発展し、地域の人々と全人類の幸せに貢献できますように希(こいねが)ってやみません。

エリザベト音楽大学創立50周年にあたり、お祝いのことばといたします。



創立50周年によせて

学校法人上智学院理事長　**山本　襄治**

「イエズス会員は歌がだめで、典礼規則にうとく、断食しない」というラテン語の諺があります。修道院と言えば、グレゴリオ聖歌と荘厳ミサ、厳しい節欲が考えられていた時代に、新しく創立されたイエズス会は、聖務日課を共同で唱えることを止め、定住の誓願による大修道院生活ではなく、派遣されれば、地の果てにでも直ちに赴くという、宣教活動を軸にした身軽な修道生活の様式を始めました。驚いた人も多かったでしょう。それがあの諺になったのです。しかし、イエズス会の創立者・聖イグナチオ・ロヨラは奇異をてらったのではありません。宗教改革によって生じた混乱と必要に、常によりよいものを求め、神と人とによりよく尽くすことを求める聖イグナチオの向上心が応えたのです。エリザベト音楽大学は、そのイエズス会が創立しました。太平洋戦争直後、原爆の被爆地広島で、ゴーセンス神父が「音楽教室」を作ったのがきっかけです。戦後の精神的荒廃のなかで、音楽によって愛を伝え、平和を教え、人格教育を目指すことで、当時の人の役にたとうと望んだのです。それが短期大学になり、4年制大学になり、大学院博士後期課程を備えるまでに発展して、創立50周年を祝っているのです。本当におめでとうございます。おなじイエズス会によって設立されている兄弟大学として、心からお祝い申し上げ、ますますの御発展をお祈り致します。イエズス会は宗教改革時代に、社会と教会の新しい必要に対応するために、修道生活を変革し、宣教活動の幅を広げました。エリザベト音楽大学の創立は、被爆体験と敗戦の衝撃のなかで、人びとに希望と愛を植えつけようとする営みでした。

20世紀末の現在、教会も社会もある種の行き詰まりを感じています。これからの歩みが、その行き詰まりを乗り越えるために必要な、英知と洞察に富んだ創造性、改革を恐れぬ勇気に満ちたものであることを心から願っております。

同窓会が生まれた頃

第2代同窓会長　水嶋　良雄（1期）

同窓会の結成

音楽学校時代に同窓会はなかったので、大学の助言で、第1期生が卒業式直前に同窓会結成へと漕ぎつけた。初代会長は修道中・高校勤務の清原氏（故人）、筆者は専務理事を務めた。その後、清原氏の固辞で筆者が第2代同窓会長そして専務理事は森近氏、砂小田氏（両者ともに故人）ついで永井氏が労を惜しまず、その任に当たった。昭和53年、サバティカルで一時離日するのを機に24年の職を辞し、宮脇氏が第3代会長、現在、第4代の品川会長が敏腕を振るっている。

大聖堂落成とプリエト師の来日

第2期生が最上級生であった年の夏、長い工期を経て完成した大聖堂では、司教4人が司式して、朝、祝別式とミサ、午後は駐日大司教と高松宮殿下御臨席で、フォーレのレクィエムを中心に、原爆死没者追悼ミサが捧げられた。そうした大事業が続いた後も合唱練習は休まず続行された。スペイン政府派遣文化使節プリエト師と共に、九州各地から東京に至る十数ケ所への演奏旅行があったためである。

O.メシアンの来学

今世紀を代表する作曲家メシアンが来日し、そのトゥーランガリラ交響曲が初演されたときは、テレビへくい入るようにかじりついた。その彼が、献呈したピアニストI.ロリオと2人で「アーメンの幻影」を、東京、大阪と広島の3ケ所だけで演奏するという話が出たときには、驚きは更に大きなものであった。

大柄の巨匠の横で音楽事務所の方が、「昨日の演奏会では機嫌を悪くしたので、今日はよろしく」と言われたとき、譜めくりを依頼された對馬先生と筆者には、言い知れぬ緊張感が走った。2台で演奏するのでアンサンブルには心を砕いており、立ち会った練習も緊張の連続であった。しかし演奏会の翌日は上機嫌で宮島へご一緒した。ゴーセンス師の、作曲をうながす言葉に返事はなかったが、その後発表された「7つの俳諧」の第5章で「宮島と海の上の鳥居」が世に現れたのであった。

鎌田前理事長の思い出

第3代同窓会長　宮脇　博（3期）

先日、幸運にもNHKテレビがゴーセンス神父についてドキュメントしている一部をみることが出来ました。今日に至るまでゴーセンス師の「こころざし」が脈々と受け継がれていることが感じられました。私にも焦土に建つ一棟のバラック校舎についてかすかな記憶があります。そのため、ゴーセンス像を除き、全く新しく再建された大学校舎の威容には感慨深いものがあります。

昭和53年、水嶋前会長から会長の役を引き継ぎ、当時の理事長鎌田神父にご挨拶に伺った時のことです。鎌田師は「私はゴーセンス学長を助けるために来ましたが、想像を絶する経営状態で、よくも潰れもせず持ちこたえてきたものだと驚きました。なんとかオイルショックにも耐え、窮状から脱出したところですが、創立者の遺志を継ぎ校舎の再建が切迫した問題となっています」と、初対面の私には厳し過ぎる口調で話されたことを覚えています。ただならぬ空気を察し、身の程知らずに大役を引受けたことを後悔しましたが、「後悔先に立たず」のたとえ通りに、事ある毎に無能さを露呈しながら大役を務めました。

鎌田師は「性懲りもなく建築しなければならない」と語りながら、ホール、本部棟、セシリア寮、西条校舎、4号館などを建て続けられました。大学院設置が認可された頃には電話で喜びの声を聞きました。退任され、療養中の師を見舞った時、逆にいたわりの言葉を受け、ここでも又、私は言葉を失いながら、初めて師の安らぎの表情を見ることが出来たのです。

10年をこえる在任中、会員の皆様の心のこもった募金活動をはじめ、総会には多数の参加を頂きました。役員の方々の尽力で名簿の充実、各期評議員、支部役員の選任によって同窓会が組織として機能するようになりました。そのお陰で心おきなく品川現会長に大役を引き継いで頂けたことを感謝しています。

創立50周年を迎えて

同窓会長 品川　喜久子(2期)

エリザベト音楽大学創立50周年誠におめでとうございます。

ふり返ってみますと、私達が学んだ頃は、戦後の復興が緒についた頃で、少人数でしたが非常に厳しい教育を受け、充実した学生生活を送りました。今や学舎も設備も整い、大学院も含め同窓生は約4,000人を数えるまでになり、全国各地・海外にまで多くの卒業生が活躍され、50周年の重みを痛感致します。

同窓会長の大役を宮脇前会長から引継ぎ、皆様のご支援のもと、早や8年余りになり、同窓会支部も66と大世帯になりました。計画的に活発な活動をしている支部もあり、支部主催の演奏会・研修・定例会議・懇親会等、又、大学の定期演奏会地方公演の際は、チケットの配布・会場でのお世話等、母校や後輩のため献身的にご尽力をなさり、有難いことだと思っております。

1987年から、ホアキン・ベニテズ前学長様提唱のホームカミングデーは、毎年、大学を卒業後15年、25年の方達が一堂に会し、理事長様・学長様をお迎えしてセレモニーが行われ、一時とはいえ学生時代に戻った皆様のお姿を拝見するにつけ大変嬉しく思っております。やがて卒業後50年の方達のセレモニーも間近いことでしょう。

同窓会活動の一端として卒業生による女声合唱団が誕生し、早や11年を迎えました。同窓生の絆がより深いものに出来ればという願いを込めて、前学長様により、コラル　エリザベト　マ　ファミーユ(エリザベトの家族による合唱)と命名され、初代増田順平先生、現在、榊原哲先生共、合唱界の実力者で且つ熱心な御指導の下、約40名が大学の教室を借りて練習に励んでいます。今年第6回の演奏会は、創立50周年記念として、女声合唱の他、バッハのカンタータ　147番をオーケストラ付混声合唱で幅広い年令の同窓生が心を一つにして歌い上げ感激一杯でした。

エリザベト音楽大学で学んだことを誇りに思い、今後益々大学の発展を願って止みません。

創立50周年を祝して

後援会長 山崎　壽之

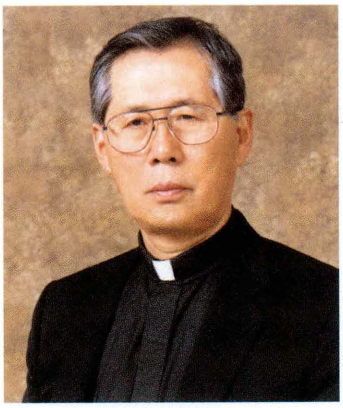
このたびは創立50周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

戦後間もない昭和23年、廃虚と化した広島をまのあたりにされたエルネスト・ゴーセンス神父は、荒んだ人々の心に再び芸術を愛し平和を愛する心を生じさせようと決心されこの地に音楽学校を設立したのが本学の始まりと聞いております。

それから半世紀にも及ぶ50年の時が流れ、神父の意志が受け継がれて現在のような立派な音楽大学となりました。卒業生もすでに、4,000名を越え、各方面で活躍されているということでたいへん喜ばしいことです。私の2人の娘も本学でお世話になりましたことをたいへん誇りに思っております。

私は前会長の下村氏から引き継ぎましたが、微力ながら本学の発展のためにお手伝いできればと思っておりますので皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

これから21世紀を迎え、本学の益々のご発展を祈念し、簡単ではございますがお祝いの言葉とさせていただきます。



大邱暁星カトリック大学総長
モンシニョール　キム　キョン・ファン

엘리자베스 음악대학의 50주년을 기념하여

인류 역사상 그 무엇보다도 온 인류에게 엄청난 아픔을 가져다 주었던 2차 세계대전이 끝난지도 어언 반세기를 넘어 가고 있습니다. 특히 히로시마는 원폭의 피해로 인해 세계대전의 참상을 대표하는 곳으로 세계인의 마음에 새겨져 있습니다. 이 엄청난 고통의 상처가 고통으로서만 남게 된다면 우리의 역사는 퇴보만이 있을 것입니다. 하지만 한 생명이 산고를 통해서 탄생하듯이, 엘리자베드 음악대학은 전후의 시련을 통해 희망을 탄생시킨 하나의 표양을 보여 주고 있습니다. 이러한 탄생을 이룩하기까지 많은 보이지 않는 노력이 있었음을 알고 있습니다. 특히 어떠한 희망도 보이지 않던 시절에 앞날을 예견하고 음악을 통한 인간구원을 이룩하고자 하신 Ernest Goossens의 뜻을 깊이 존경해 마지 않으며 또 그 동안 그의 뜻을 기려 폐허 속에서 지금의 엘리자베드 음악대학을 이룩하게 하신 많은 분들에게도 존경의 뜻을 표하는 바입니다.

엘리자베드 음악대학과 마찬가지로 대구효성가톨릭대학도 크리스찬 신앙안에서 교육을 통한 인간구원을 교육이념으로 삼고 있습니다. 더욱이 엘리자베드 음악대학과같이 우리 대학도 한국전쟁이라는 엄청난 시련과 상처를 가지고 전후의 폐허속에서 출발하여 지금의 모습을 이룩한 공통점을 가지고 있습니다. 이러한 교육이념의 일치성과 더불어 온 인류가 한가족처럼 되어가는 상황하에서 우리는 이제 협력과 상호이해를 통해 더욱 더 나은 21세기를 대비해야 할 시기를 맞고 있습니다. 이러한 시대적인 흐름에 따라 엘리자베드 음악대학과 대구효성가톨릭대학은 자매결연이라는 상호 협력의 기틀을 마련하였고 그 동안 많은 성과가 있었습니다. 이러한 성과와 상호 노력이 엘리자베드 음악대학의 50주년을 맞이하여 다시 한 번 그 의의를 되새겨보는 기회가 되고, 양 대학의 유대관계가 더욱 더 공고해지기를 바랍니다. 그리고 21세기에는 양 대학이 크리스찬 신앙의 교육이념의 실천에 있어서 보다 알찬 결실을 이룩하기를 바라마지 않습니다.

1998년 8월

대구효성가톨릭대학교 총장
몬시뇰 김 경 환

エリザベト音楽大学の50周年を記念して

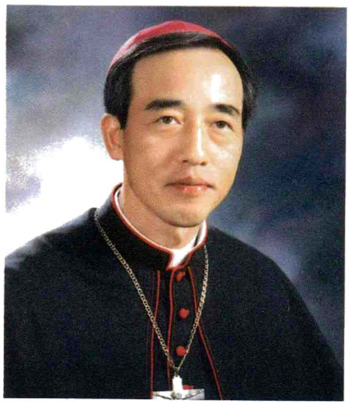
人類の歴史上全人類に計り知れないほど大きな傷みをもたらした第2次世界大戦が終わってから早や半世紀が過ぎようとしています。特に広島は原爆の被害により世界大戦の惨状を代表する所として世界中の人々の心に刻まれています。

この大きな苦痛の傷が単なる苦痛としてのみ残るならば、私達の歴史は退歩しかありえないでしょう。しかしながら、一つの生命が産みの苦しみを通じて誕生するように、エリザベト音楽大学は戦後の試練を通じ希望を産出させた一つのあらわれだと言えます。

貴学がこの様な誕生を迎えるまでには人知れぬ努力があったと思います。特にどんな希望も見い出せない時に明日を予見し、音楽を通じた人間救済を成しとげようとされたエルネスト・ゴーセンスの志に深く尊敬をし、またその間彼の志をはぐくみ廃墟の中から今日のエリザベト音楽大学を築きあげられた沢山の方々に尊敬の意を表するしだいです。

エリザベト音楽大学と同様に、大邱暁星カトリック大学もクリスチャン信仰の中で教育を通じた人間救済を教育理念としています。まして、エリザベト音楽大学と同じく、我が大学も朝鮮戦争という多大な試練と傷を受けながら、戦後の廃墟の中から出発し、今日の姿を築きあげたという共通点を持っています。このような共通の教育理念と共に、全人類が一つの家族になろうとする状況下で私達はこれから協力と相互理解を通じより良い21世紀に備えなければならない時を迎えています。このような時代的流れの中でエリザベト音楽大学と大邱暁星カトリック大学は姉妹校という相互協力の土台を築き上げ、これまで数多くの成果を得ることができました。このような相互努力がエリザベト音楽大学の50周年を迎え、その意味を改めて考える機会になり、両大学の絆がより強まることを望みます。そして21世紀には、両大学がクリスチャン信仰教育の理念実践において大きな実を結ぶことを願ってやみません。

1998年8月
大邱暁星カトリック大学総長
モンシニョール　キム　キョン・ファン



韓国カトリック大学総長
ペトロ　カン　ウ・イル司教

가톨릭대학교
총 장 실
137-701 서울特別市 瑞草區 瑞草洞 505
Tel (02)590-2311, Fax (02)590-2314

The Catholic University of Korea
Office of President
505 Banpo-dong, Socho-gu, Seoul 137-701, Korea
Tel (02)590-2311, Fax (02)590-2314

August 17, 1998

Rev. Kozaki Jiro SJ
Office of the Chancellor
Elizabeth University of Music
4-15 Nobori-Cho, Naka-Ku,
Hiroshima 730-0016
Japan

Dear Father Kozaki Jiro,

This is to send you our warmest congratulations for your University's 50th Anniversary of foundation. As you celebrate the fifty years of God's blessing on your University and give thanks to Him for all you have achieved over the years, I would like to be united with you on behalf of the entire family of the Catholic University of Korea. The faculty and staff of the Department of Music specially joins with me in sending you the best wishes on this happy occasion.

As a representative of your "sister" University in the "extended family" of Catholic Higher Education, I want to express my deep appreciation for your consistent efforts at implementing your founding vision to bring meaning and hope to the world through professional education in music in the spirit of Christian bumanism. I hope and pray that the years to come may see ever more fruitful achievement of your educational vision.

I also hope that through more extensive cooperative efforts between our institutions we may be able to contribute to human understanding and cultural exchange in East Asia as well as promote peace in the world.

Once again, congratulations for the 50th Anniversary of your University. May God bless you always.

Sincerely yours,

+ Peter Kang

Bishop Peter U-Il Kang
President
The Catholic University of Korea

エリザベト音楽大学の創立50周年に際し、心からの祝辞をおおくりいたします。韓国カトリック大学の全員を代表いたしまして、私も皆様と共に、貴大学への50年間にわたる神の祝福を喜び、長年にわたり皆様が成し遂げてこられましたすべてのことを神に感謝いたしたいと存じます。とりわけ本大学の音楽部門の教職員は、この慶事を祝しております。

私は、カトリックの高等教育機関という「大家族」の中の「姉妹」大学を代表いたしまして、キリスト教のヒューマニズム精神に基づいた音楽専門教育を通じて世界にその意義と希望をもたらす、という建学の精神の追究に一貫して努力してこられました貴大学に、大きな賛辞をおくらせていただきます。そして今後さらに貴大学の教育理念が実り多き功績を生み出されますようにお祈り申しあげます。

また、貴大学と本大学相互の一層発展した協力により、世界平和の促進のみならず、東アジアにおける相互理解と文化交流にも、私共は貢献し得るのではないかと期待しております。

重ねて、エリザベト音楽大学の50周年をお祝い申し上げます。神の祝福がいつも皆様にありますように。

韓国カトリック大学
総長
ペトロ　カン　ウ・イル司教

中華民国輔仁大学学長
楊敦和敬賀

FU JEN CATHOLIC UNIVERSITY
HSINCHUANG, TAIPEI HSIEN (24205) TAIWAN, R. O. C. (02) 901-7391
OFFICE OF THE PRESIDENT

依麗莎白音樂大學創校五十週年誌慶

樂育英才樹人樹木

絃音不輟鐸聲遠揚

輔仁大學校長 楊敦和敬賀

エリザベト音楽大学創立五十周年記念
音楽を似て英才を育て、
人材の育成木を植えるの如く。
絃の音は止まず、
巨大鈴の鳴き音遠く遠く広まる。

輔仁大学学長
楊敦和敬賀

米国ニューオリンズ　ロヨラ大学
音楽学部学部長
エドワード・J・クヴェット

LOYOLA UNIVERSITY NEW ORLEANS

COLLEGE OF MUSIC
Office of the Dean

Elisabeth University of Music
4-15 Nobori-Cho
Naka-ku
Hiroshima 730-0016 Japan

Thank you for your letter regarding the celebration of the Elisabeth University of Music's 50th anniversary. Congratulations to all the members of the university family as you celebrate during this wonderfull occasion. Indeed, it is inspiring to read that it was the art of music that brought meaning and hope to your city. The way in which music inspired your founding members 50 years ago can be seen today in the many fine graduates from your institution.

Dr. Decuir and Mr. Hinderlie have both told me what a wonderful experience they had at Elisabeth and look forward to a timely return. I personally look forward to having the opportunity to visit Elisabeth University of Music to share our work in music education.

On behalf of the College of Music at Loyola University, New Orleans, congratulations for your service to Catholic and Jesuit music education for 50 years. I wish you continued success.

Sincerely,

Edward J. Kvet
Dean

EJK/tm
enclosure

6363 St. Charles Avenue, Campus Box 8, New Orleans, LA 70118, Telephone: 504.865.3039, Facsimile:504.865.2075

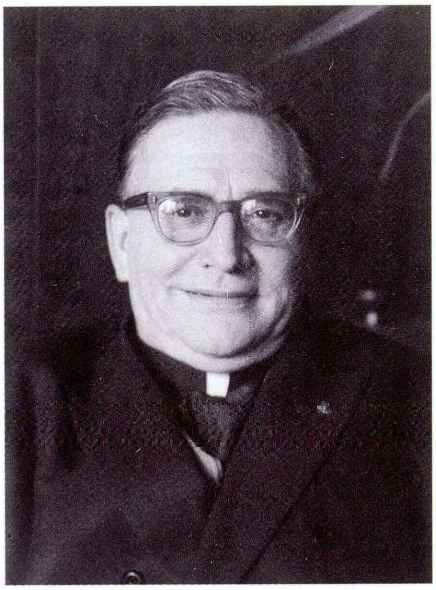
エリザベト音楽大学の創立50周年の御祝典に関する御書簡をいただきまして、ありがとうございました。このすばらしい慶事に際し、貴大学の皆様に祝辞をおくらせていただきます。皆様の町、広島に、その意義と希望を与えたのが、音楽という芸術であったと拝読して、深い感銘を受けております。50年前、貴大学を創立された方々を動かしていた音楽の心は、現在でも、貴大学の多くの優秀な卒業生に受け継がれていることと存じます。

当大学のデクィエル博士とヒンダリー氏は、共に、エリザベト音楽大学でどんなにすばらしい経験をしえたかということや、折りをみて是非また訪問したい旨、話しております。私も、エリザベト音楽大学を訪れ、音楽教育における両大学の業績を分かち合う機会を心待ちにしております。

ニューオリンズのロヨラ大学音楽学部を代表いたしまして、カトリック教育とイエズス会の音楽教育に、50年間も貢献されてこられましたことに、お祝い申し上げます。今後の一層のご発展をお祈りいたしております。

学部長
エドワード・J・クヴェット

■歴代理事長・学長



エルネスト・ゴーセンス

初代理事長・学長
（1948～1973年理事長在職　1948～1970年学長在職）

ゴーセンス師の思い出

山本　千恵子（旧師）

エリザベト音楽大学創立者ゴーセンス師は、神父としてよりも、学長として強く心にきざみつけられた方です。ご性格は、強烈な意志と実行力の持ち主で、喜怒哀楽の表現が激しいが、ユーモアに富んだ方で、「歌え、踊れ、喜こべ」とよくおっしゃっていました。フレッシュで家庭的な雰囲気を好まれ、一見傲慢にみえるが実は謙虚な方、というのが私の印象です。

師を学長と仰いで共にあった25年間は、私の人生に大きな宝を与えられたと思っております。

鎌田　武夫

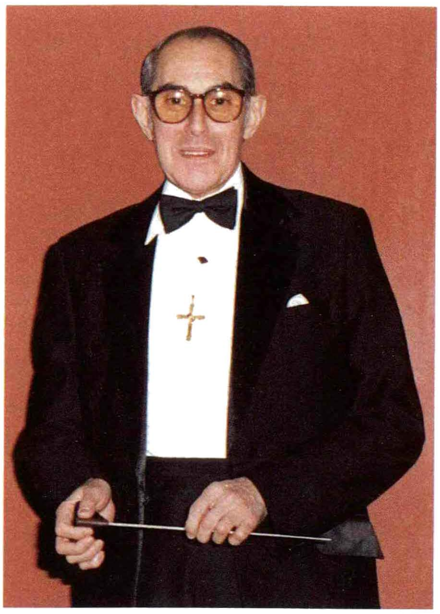
第2代理事長
（1973～1990年在職）

鎌田理事長の思い出

中村　寿子（永井）元理事長秘書

私が本学へ就職して間もない頃、理事長から「本日の理事会で先生方にあなたを紹介します」と突然言われ、「今日は普段着ですので･･･。」と申し上げた私に、理事長は「ボロは着てても心が錦であればよろしい。」とおっしゃいました。その時は「理事長も演歌を聞かれるのだ。」と思っただけでした。数年後、初めての子育てで、なりふり構わず子供が汚した床を這いつくばってきれいにする毎日で、惨めな気持ちになった時、ふとこの言葉が思い出され、勇気づけられました。それ以来、この言葉は私の支えとなり、理事長は生涯忘れ得ぬ存在となりました。

そうおっしゃった理事長ですが、私がいつも黒いカーディガンを着て仕事をしていると、「若い娘がカラスみたいな格好をせず、これでもっと良い服を買って来なさい。」と商品券を差し出されたこともありました。勿論厚くお礼を申し上げて固辞しましたが、心温まる思い出です。



ホセ・テホン

第2代学長
（1970～1986年在職）

テホン神父の思い出

北林　康彦（音楽学科助教授）

私は、広島大学工学部経営工学学科を卒業して、ヤマハのギター講師となり、それと同時にエリザベト音楽大学の聴講生となった。テホン神父さまには、聴講生になった最初から親しく声をかけていただいた。神父さまがスペイン人でギターがお好きであったこと、私が作曲に大きな興味を持っていたことなどがきっかけだったと思う。その後、作曲の師としてだけではなく、媒酌人を引き受けてくださったのも、スペイン留学を勧めてくださったのも、家族3人をカトリックの洗礼に導いてくださったのも、テホン神父さまであった。数えればきりがないほどのお世話になった。

テホン神父さまは厳しく、また一方では大変に優しい師だった。ダンディで緑の服を好まれた。緑の長いマフラーをして廊下を歩く長身のお姿が今でも目に浮かぶ。

喘息の持病と闘いながら、献身的に奉仕をされた。作曲の師としてだけでなく、霊的な師、私の人生におけるすべての意味での師として尊敬の念を持ち続けている。

ホアキン・ベニテズ

第3代学長
（1986～1996年在職）

ベニテズ前学長が進めた大学の充実

井上　弘惟（前事務局長）

一言で言うと、前2代の学長がエリザベトの基盤を作られ、ベニテズ学長が音楽大学としての質の充実に尽くされたと言える。その第一は何と言っても大学院（修士・博士）の設置である。丁度、鎌田理事長がご病気のため、学長と理事長の二役を、並々ならぬ熱意とファイトで、無理ではないかと言われていた困難を乗り越えて実現できたのは、ベニテズ学長のお力によるものである。文部省へ提出の外国からの就任承諾書のファックスを、冬の真夜中、自ら寒い郵便局で長時間待って受信し、間に合わせたことなど、頭が下がる思いであった。

その外、大学基準協会への加盟、諸制度の改正に伴う新しい取り組みなど、大学充実のための対策を精力的に進められた。暗礁にのりあげると何度も「頑張りましょう」と言われた、ベニテズ学長の心強い言葉が懐かしく思い出される。いつまでもお元気でご活躍ください。